

# 人権に関する作文・絵画(小中学生の部)入選作品

すべての市民の基本的な人権が尊重され、差別のない明るく住みよい町の実現に向け、人権に関する標語、絵画、作文を募集しました。その中から、入選作品を随時紹介します。(学年は平成30年度のもので)

「ありがとう」  
その言葉だけで  
やさしさに

光風台小学校 4年  
矢吹 匡



東能勢小学校 4年 糺谷 葵

探して 実行  
広げていこう  
仲間の輪

東能勢中学校 1年  
山本 昂暉

通じたら  
きみの心は  
強くなる

東ときわ台小学校 4年  
板谷 羽未

## 「ぼくとベルさん」を読んで考えたこと

東ときわ台小学校 6年 横山 武郁

「ぼくとベルさん」という本と出会って、『個性』について考えた。  
のんびりとした人、行動力のある人、どんな時も前を向ける人、挑戦し続ける人、そしてこの主人公のように読み書きのできない人など、他にも色々な特徴をもっていて、それが一人ひとりの個性となっている。そんなそれぞれの個性のことを、人々は長所、短所とよび、それを自分の基準だけで良し悪しを決めてしまう。そして悪いと決めたことを『欠点』として、その人の本質を見失ってしまう。この本を読むまでは、僕もそうだった。しかしこの本を読んで気付いた。どんな人になっても一人ひとり、すぐれたところが必ずあるということ。できることもできないことも一人ひとりちがう。他人にとつては簡単で普通にできることでも、自分には難しいことがだれにだってあるはずだ。でも、だれにでも、どんな人になっても誇れるものが必ずある。

僕の場合、自分で考えて行動するのは苦手だが、一つのテーマについて深く考えるのは得意だ。この本のエディも頭の悪い子だと言われていたのに、最後には人の命を助けることができた。

このように、どんな人にも可能性はあり、それを否定してはいけない。そして、見た目や先入観でその人を判断してはいけないと思う。

僕はまだ、自分の良いところ、得意なことを見つけられていない。でも今は、確実に二歩二歩進んで行きたい。その過程で自分の中にある何かに気づけたらいいと思う。この本の中で、ベルさんが言っていた

「夜の後は朝が続いているように、必ずそのときはやって来る。」  
という言葉が今も心に残っている。これからは挫折しそうなとき、悲しいとき、この言葉を思い出し、前を向いて進んでいこうと思う。そして、他人に感謝してもらえそうな人になりたい。

町の木/スギ



町の花/タンポポ



町の鳥/ウグイス



町の面積



	人口	男	女	世帯数	
R元5月末日	19,553人	9,333人	10,220人	8,651世帯	
人の動き	前月比	-26人	-10人	-16人	1世帯
	人口前月比の内訳	転入等	転出等	出生	死亡
		41人	50人	5人	22人